

# 平成30年度福岡市小図研 9月定例会記録

文責：三重野睦美（西戸崎小）

日時：平成30年9月8日（土）

13:30～15:00

場所：福岡市立三筑小学校図工室

内容：研修 授業研究

「形と色の遠近」

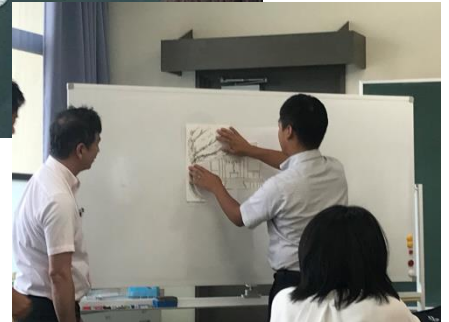
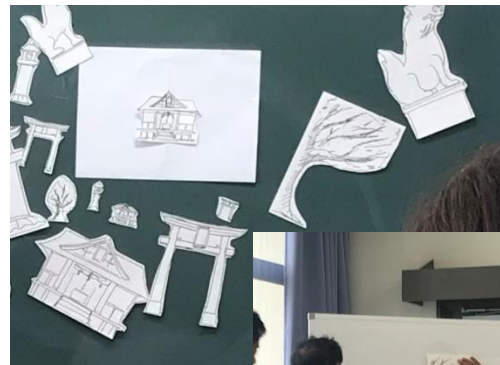
～高学年風景画指導における

導入段階の一実践～

元金武小学校校長 倉光東昭 先生



そこで、パーツに分かれた教材を使い、背景や、近くにもものがあることによって画面に奥行きが生まれることがわかります。様々なパーツを操作することによって、たいへんわかりやすく理解することができました。



9月8日（土）、三筑小学校にて定例会が行われました。倉光先生のお話は、「模擬授業と教材づくり」でした。



まずは、模擬授業のめあてとして以下のことが示されました。

- ① 5年生になること
- ② 一つはさがすこと

## 1 形の遠中近

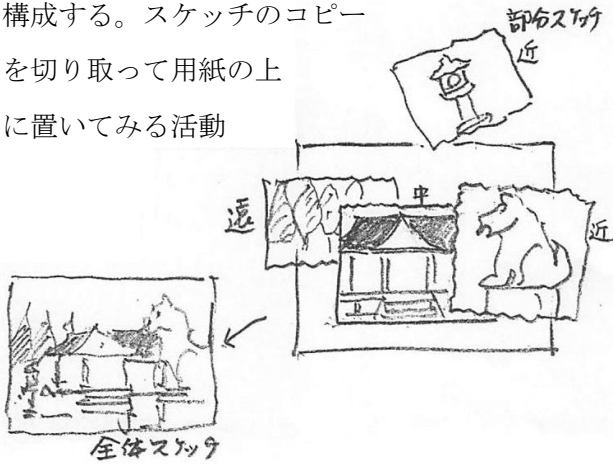
まず、二つの絵が示され、「どっちが好きか」「どこが違うか」を考えます。

ホワイトボードで実際に操作してみて、試行錯誤しながら、画面構成を考えます。

実際に児童が行う画面構成としては、描く活動だけでなく、手を動かしながら捜査活動を取り入れることがよいことがわかりました。

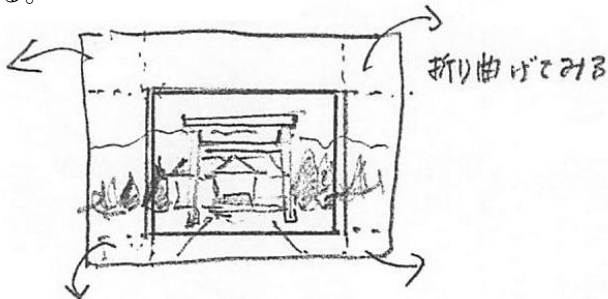
### ① 置く活動

取材してきた部分スケッチをもとに構成する。スケッチのコピーを切り取って用紙の上に置いてみる活動



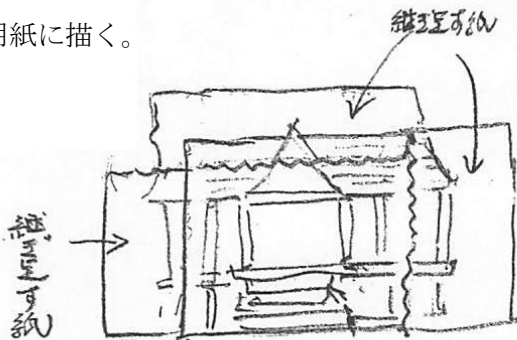
### ② 折り曲げる活動(トリミング)

不要部分を除いて構図を決める活動  
ラフスケッチをコピー紙などに描き、ここだけは残したいという場所を考えて折り曲げてみる。



### ③ 継ぎ足す活動 (ワイド)

表したいものを意識しすぎて周りが不足しているときに、紙を継ぎ足す。構図が決まったら画用紙に描く。



## 2 色の遠中近

色の遠中近については、色の濃淡が重要とのこと  
です。



全体画面については遠くは薄く、近くは濃くなどの工夫をすることで、奥行きが出ます。

また、部分については、筆のタッチを工夫することで奥行きができることを学びました。



様々な自作の教材は、とても分かりやすく、なによりとても魅力的なものでした。教師の自己研鑽という意味でも、大変勉強になりました。

